

令和6年度 菊池川学識者懇談会資料

きくち

菊池川総合水系 環境整備事業

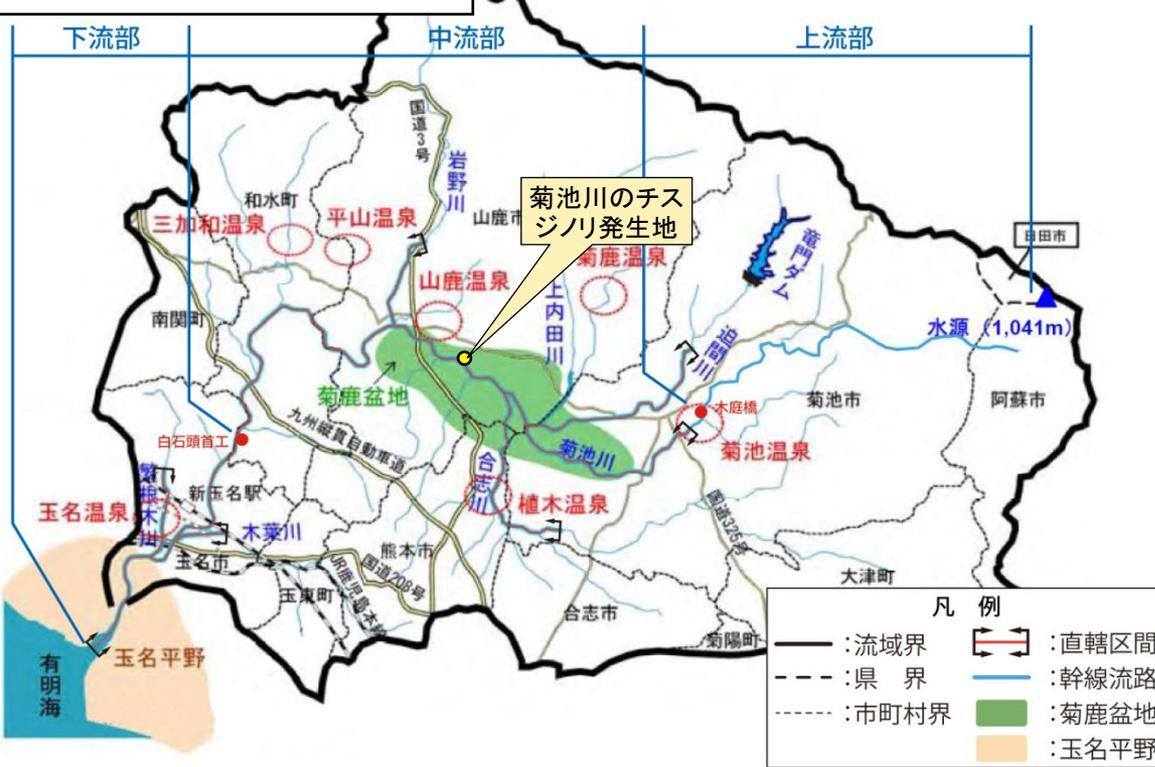
- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

●流域の概要、河川環境をとりまく状況

菊池川流域概要図



■菊池川の概要

流域面積 : 996km² 流域内人口 : 約20万人※
幹川流路延長 : 71km 流域内市町村 : 7市5町

■各区間の特徴

<上流部>

- ・広葉樹の自然林が広く分布。
- ・溪流にはカワガラス、ヤマメ等が生息。

<中流部>

- ・田園地帯を蛇行しながら流下。
- ・分田橋から山鹿大橋までの区間は「菊池川のチスジノリ発生地」として国の天然記念物に指定されている。

<下流部>

- ・白石頭首工までは感潮区間。
- ・有明海特有の大きな干満差による潮位変動の影響が及ぶ。
- ・河口部に広がる干潟にはヤマトシジミが生息。

※国土交通省「河川関係統計データ」
：平成22年国勢調査をもとに算出

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

●菊池川水系の河川環境の整備と保全に関する目標

- ◆ 菊池川水系では、これまでの流域の人々と菊池川との歴史的・文化的な関わりを踏まえ、菊池川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす良好な河川景観の保全に努め、重要種であるチスジノリ等をはじめ多様な動植物が生息・生育・繁殖する自然環境を保全・再生するとともに、住民の憩いの場や河川環境学習の場として地域に親しまれる河川空間を創出し、活力のある菊池川を次世代に引き継ぐよう努めるものとしている。
- ◆ 下流部の感潮区間では、かつてヤマトシジミが多数生息し、かつ住民の憩いの場でもあった砂浜が失われたことから、砂浜再生に取り組んだところであり、地域の意向を確認しながら継続して実施するものとしている。
- ◆ 流域住民の生活基盤や歴史、文化、風土を形成してきた菊池川の恵みを活かしつつ、カヌー等の河川利用、河川環境学習の場の整備・保全等、川や自然とのふれあいの場の確保に努めるものとしている。
- ◆ 上流部の溪流、中上流部の瀬・淵等や周辺の田園風景、下流部の高瀬船着き場と俵ころがしやハゼ並木等の歴史的遺構のほか、沿川の土地利用と調和した良好な水辺景観の維持に努めるものとしている。

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域開発の状況

【自治体の取組】(菊池市:かわまち・もりまち・桜の里づくり、菊池のしらべ)

- ・菊池市では、まちなか中心部の活性化を図るため**まちなか戦略を策定**し、「かわまち・もりまち・桜の里づくり」等により観光地としてまちづくりを進めている。**「かわまち」により川(自然)ゾーンに位置する玉祥寺地区の迫間川とまちなかをつなげ**、「もりまち」によりまちなか中心部全域の空き地等に植樹し緑陰のある落ち着いた街並みを整備し、「桜の里づくり」により桜の植樹や管理を行っている。その他、関係機関等の補助制度を活用しながらボランティア活動による花いっぱい運動への支援や歴史文化ゾーンでのガーデニングコンテストを行うなど、観光地としてのまちなか中心部のまちづくりを進めている。
- ・同じくまちなか中心部において、**かわまちづくりの整備箇所となる迫間川に続く御所通りの一部(歴史文化ゾーン)を歩行者天国にし**、菊池松籬子能場を舞台とした日本舞踊・伝統芸能の披露、歴史スポットを巡るデジタルスタンプラリー等を行う「菊池のしらべ」を開催している。

まちなか戦略マップ



⇒里山の古都の癒し (グルメ、温泉、歴史)

×ウォーカブル ×ワーケーション



「もりまち」による空き地への植樹
(まちなか中心部全域)



「桜の里づくり」による桜の植樹
(菊池市内全域)



花いっぱい運動への支援(菊池市内全域)



市内店舗による、御所通りの歩行者天国時の出店(歴史文化ゾーン)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2) 地域の協力体制

- ◆菊池川流域において、川を活かした地域づくりや川遊び、また、川をテーマにした環境問題の取組みなど、川を中心とした活動を行っている団体等が「菊池川の水を飲めるように」を合い言葉に集まり、流域内の地域連携・地域活性化を図ることを目的として平成15年3月に「菊池川流域連携会議」が結成された。
- ◆菊池川流域連携会議では、所属団体が連携して川の清掃活動、カヌーやSUP体験、生物観察学習会、シンポジウム、ロープレスキュー等の活動を展開している。また、定期的に連携会議（役員会・総会）の開催・運営を行っており、今後も引き続き地域の協力が見込まれる。

菊池川流域連携会議 所属団体

市町	所属団体
玉名市	菊池川おおかわの会
和水町	一般社団法人 ネイチャー・サイエンス スクール
山鹿市	下町惣門会、かわんたみ、水辺プラザかもと、菊池川漁業協同組合、菊池川自然塾、古里の自然を守る山鹿ホタルの会、菊池川育てネット
菊池市	菊池川キッズ探検隊、竜門倶楽部、竜門ダムで遊び学ぶ会、菊池法人会青年部会、子どもの未来を考える会



川の清掃活動(ブラジルチドメグサ駆除)



カヌー体験



菊池川自然塾(生物観察学習会)



菊池川あそび(SUP体験)



菊池川流域連携会議 設立20周年記念事業
令和6年2月3日 天聡の蔵



菊池川流域連携会議 設立20周年記念事業シンポジウム

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2)地域の協力体制

- ◆平成30年8月に地域住民・菊池市・学識者・国土交通省等により構成された「菊池市かわまちづくり推進協議会」、平成30年10月には、「菊池市かわまちづくり会議」を立ち上げ、かわまちづくり計画の検討を進め、平成31年3月に「菊池市かわまちづくり」としてかわまちづくり支援制度の認定を受けた。
- ◆整備完了後においても推進協議会を開催し、地域による迫間川の維持管理方針や、隈府・玉祥寺を含めた迫間川周辺の利活用に関する協議を継続的に開催しており、今後も引き続き地域の協力が見込まれる。
- ◆整備箇所の利用と管理については、整備前・整備中・整備後においても地域住民の参画による迫間川の水辺の活発な利用が行われており、菊池川キッズ探検隊やかわびらき、まちあるき等の様々なイベントも開催されている。また、イベント開催前には地域住民と協働の維持管理会も開催されている等、整備後も継続的な利用と管理が見込まれる。
- ◆今後は推進協議会等の位置付けを見直しつつ、営利活動の展開も視野にいれながら継続的な利用と管理を推進していく予定である。



2018年から「推進協議会」や「かわまちづくり会議」で協議



地域住民で構成された「菊池川キッズ探検隊」



かわまちづくり かわびらき (2022年から毎年開催)

菊池地区かわまちづくり推進体制

●承認組織

菊池市かわまちづくり推進協議会

学識者、各区の代表者、商工会、観光協会、
市内各種団体の代表者で構成された組織

●計画検討組織

菊池市かわまちづくり会議

各地区の代表者や迫間川のかわづくり、菊池市のまちづくりへの参画を希望する市民



推進協議会、かわまち会議の実施状況

組織名	実施年度	参加者
菊池市かわまちづくり推進協議会	平成30年度～	熊本大学熊本創生推進機構、上町区、中町区、下町区、玉祥寺区、菊池市商工会、一般社団法人菊池観光協会、御所通り繁栄会、御所通り景観形成協議会、菊池川河川事務所、菊池市
菊池市かわまちづくり会議	平成30年度～	大学生、高校生、上記推進協議会を構成する地区の住民及び観光協会、活動団体等の関係団体のうち、参加希望者

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3) 関連事業との整合

- ◆菊池川総合水系環境整備事業の上位計画である菊池川水系河川整備計画【平成23年9月】では、基本理念を「菊池川のやすらぎと清流を未来へ」としており、河川環境の目標では菊池川らしい河川環境と良好な河川景観、水辺空間を保全・創出し、次世代へ引き継ぐこととしている。
- ◆菊池川総合水系環境整備事業はこれらの目標を見据えて事業を推進しているところであり、事業を通じて着実に目標を達成しつつある状況である。

～菊池川のやすらぎと清流を未来へ～

治水

洪水から流域を守る川づくりと地域の防災力向上を目指します。

- ・ 菊池川流域では、過去より、洪水被害が頻発している中、現在でも洪水に対して十分な安全度が確保されていません。そこで、河川整備計画で定めた洪水対策等を行うことで昭和57年7月洪水等と同規模の洪水を菊池川本支川からはん監させることなく、概ね安全に流下させることができるようになります。
- ・ 洪水時の被害を最小限に抑えるため、迅速かつ的確な防災情報の提供等を行うとともに、災害に強い地域を目指し、自助・共助・公助体制の構築等の危機管理体制の充実を目指します。
- ・ 堤防や水門等の施設の機能及び河道の治水機能を維持するため、的確な管理を行います。

利水

限りある川の恵みを大切にしていきます。

- ・ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に努めていきます。

環境

菊池川らしい河川環境と良好な河川景観、水辺空間を保全・創出し、次世代へ引き継ぎます。

- ・ 菊池川の多様な動植物が息息・生育・繁殖する河川環境と良好な河川景観等を保全します。
- ・ 地域住民の憩いの場となる水辺空間等を地域住民や関係機関と連携しながら創出していきます。
- ・ 水質の保全と向上を地域住民や関係機関と連携しながら進めていきます。
- ・ 菊池川を次世代に引き継いでいくために、学校関係者、自治体、住民団体と連携しながら、河川環境教育等を行います。

歴史・文化

古くから流域住民の生活に密着していた菊池川流域の歴史・文化を継承していきます。

- ・ 菊池川流域で加藤清正の「石はね」、「ハゼ並木」といった現在も受け継がれている歴史、文化を保全し、次世代に継承します。
- ・ 既存の観光資源と連携しながら、新たな歴史、文化、観光が創出される川づくりを目指します。



自然環境を保全・創出する整備内容検討のための専門家現地視察



地域住民と関係機関で構成された会議による憩いの場や水辺空間創出のための計画づくり



流域活動団体の活動内容についての意見交換（菊池川流域連携会議定期総会）



菊池川を観察する体験塾（流域住民団体等による取組）

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(4) 河川環境等を取りまく状況

- ◆上流部は、山間部を流下し、ケヤキ、モミ、ブナといった広葉樹の自然林が広く分布している。菊池渓谷に代表される溪流にはヤマメ、カジカガエル等が生息している。
- ◆中流部は、田園地帯を蛇行しながら流下し、分田橋から山鹿大橋までの区間は「菊池川のチスジノリ発生地」として国の天然記念物に指定されている。中流部には多くのタナゴ類が生息するほか、水際にはツルヨシ群落や竹林等の河畔林が分布しておりオヤニラミ、オオヨシキリ等が生息している。
- ◆下流部は、白石頭首工より下流側の感潮区間で有明海特有の大きな干満差による潮位変動の影響が及んでいる。砂底にはヤマトシジミ等が生息しており、河口部に広がる泥底にはムツゴロウも生息している。
- ◆上記は、平成23年9月の菊池川水系河川整備計画策定以降、令和6年現在においても経年的に確認されている。



ヤマメ (上流部)



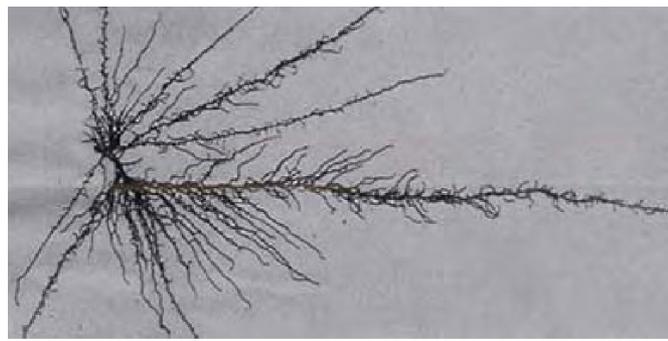
ニッポンバラタナゴ (中流部)



ヤマトシジミ (下流部)



カジカガエル (上流部)



チスジノリ (中流部)



ムツゴロウ (下流部)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(5)河川の利用状況

- ◆菊池川流域の河川敷は、散策やサイクリングに利用されているほか、イベント会場、サッカーやラグビー等のスポーツ広場等として利用されている。
- ◆菊池川では、重要な観光資源となっている高瀬裏川花しょうぶまつりや玉名納涼花火大会(玉名市)、山太郎祭inなごみ(和水町)、伝統的な催しである山鹿灯籠まつり(山鹿市)、竜門ダムフェスタ(菊池市)等、多くの地域イベントが開催されている。
- ◆菊池川自然塾(山鹿市)、キッズ探検隊(菊池市)等菊池川の豊かな河川環境を活かした子どもたちの体験学習が活発に実施されている。
- ◆菊池川流域の4市町(玉名市・和水町・山鹿市・菊池市)は、平成29年4月に“米作り、二千年にわたる大地の記憶～菊池川流域「今昔『水稻』物語」～”のストーリーで日本遺産の認定を受けた。日本遺産認定によって菊池川を活かしたまちづくりのニーズが高まっており、「菊池川流域日本遺産協議会」を中心に、流域が連携した広報や観光商品・コンテンツ開発等の取り組みが進行中である。



玉名納涼花火大会(玉名市:高瀬地区)



菊池川あそび(玉名市:高瀬地区)



サッカー大会(山鹿市:山鹿地区)



水生生物調査(菊池市:菊池地区)



竜門ダムフェスタ(菊池市)



1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

<事業評価(再評価)対象事業の概要>

区分	箇所名	事業期間	備考
自然再生	きくちがわりゅう 菊池川下流	平成18年度～平成22年度	完了箇所 (報告済み)
水辺整備	かもと 鹿本地区	平成15年度～平成17年度	
	しらいし 白石地区	平成17年度～平成20年度	
	やまが 山鹿地区	平成21年度～平成22年度	
	たかせ 高瀬地区	平成25年度～令和元年度	
	きくち 菊池地区	令和2年度～令和9年度 (予定)	継続箇所
菊池川総合水系環境整備事業		平成15年度～令和9年度 (予定)	



凡例	
	流域界
	河川
	市町村界
	完了事業箇所
	継続事業箇所

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

(1)事業の投資効果

項目	前回評価時 (令和元年度)	今回評価時 (令和6年度)	変更理由
総事業費	約25.5億円 【自然再生】 ・菊池川下流地区:約3.7億円 【水辺整備】 ・鹿本地区 :約4.9億円 ・白石地区 :約4.1億円 ・山鹿地区 :約5.0億円 ・高瀬地区 :約2.9億円 ・菊池地区 :約5.0億円	約25.3億円 【自然再生】 ・菊池川下流地区:約3.7億円 【水辺整備】 ・鹿本地区 :約4.9億円 ・白石地区 :約4.1億円 ・山鹿地区 :約5.0億円 ・高瀬地区 :約2.7億円 ・菊池地区 :約5.0億円	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の国勢調査結果を反映した集計世帯数の時点更新。 ・工事の効率化による工期短縮。
整備完了年	令和11年度	令和9年度	
B/C	2.2	2.1	
B(便益)	約94.0億円	約120.5億円	
C(費用)	約42.8億円	約58.5億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

<費用対効果等>

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	25.3 億円	—	120.5 億円 ※社会的割引率 1%の場合: 165.3億円 2%の場合: 146.1億円	58.5 億円 ※社会的割引率 1%の場合: 58.7億円 2%の場合: 58.5億円	2.1 ※社会的割引率 1%の場合: 2.8 2%の場合: 2.5
完了箇所	20.3 億円	—	105.2 億円	52.8 億円	2.0
自然再生	3.7 億円	—	35.1 億円	8.9 億円	3.9
菊池川下流地区	3.7 億円	置砂、モニタリング調査等	35.1 億円	8.9 億円	3.9
水辺整備	16.6 億円	—	70.1 億円	43.9 億円	1.6
鹿本地区	4.9 億円	管理用通路、管理用階段	29.4 億円	16.2 億円	1.8
白石地区	4.1 億円	階段護岸、管理用通路、高水敷整正	13.3 億円	11.3 億円	1.2
山鹿地区	5.0 億円	管理用通路、管理用階段、高水敷切り下げ、堤防強化盛土	16.7 億円	11.9 億円	1.4
高瀬地区	2.7 億円	管理用通路、護岸、高水敷整正	10.7 億円	4.5 億円	2.4
継続箇所	5.0 億円	—	15.3 億円	5.7 億円	2.7
水辺整備	5.0 億円	—	15.3 億円	5.7 億円	2.7
菊池地区	5.0 億円	管理用通路、緩傾斜護岸、モニタリング調査等	15.3 億円	5.7 億円	2.7
残事業	0.1 億円	モニタリング調査等	0.4 億円	0.1 億円	3.3

※数字は小数点第2位で四捨五入。そのため、積み上げによって合計値の小数点第1位に誤差が生じることがある。

	アンケート実施時期	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計対象世帯数	支払い意思額(円/月・世帯)
菊池川下流地区	平成20年度	2,000	394	玉名市内	25,278	311
鹿本地区	平成23年度	1,000	127	半径10km圏内(流域内)	30,263	179
白石地区	平成23年度	1,000	125	半径10km圏内(流域内)	10,473	263
山鹿地区	平成26年度	1,000	129	半径10km圏内(流域内)	11,170	334
高瀬地区	令和元年度	1,000	163	半径10km圏内(流域内)	8,390	408
菊池地区	令和元年度	2,000	321	半径10km圏内(流域内)	17,522	380

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(1)事業の進捗状況 (継続箇所:菊池地区(水辺整備))

1)事業の必要性

◆菊池市では、まちなか中心部の活性化を図るため、まちなか戦略を策定し、「かわまち・もりまち・桜の里づくり」等により観光地としてまちづくりを進めている。「かわまちづくり事業」は、上記のまちづくりの一翼を担っており、隣接する御所通りとともに、迫間川と一体となった新たな賑わいの創出が期待されている場所である。

◆訪れた観光客をまちなかに誘導して滞在時間を延ばし、飲食や宿泊等菊池市の経済効果につなげるため、まちなかの自然資源である迫間川への周遊散策路や河川空間での滞在場所が必要である。

◆事業対象範囲は、整備前も魚釣りや川遊び、水生生物調査等で利用されていたが、河岸部までの通路が無かったため水辺に近づきにくく、高水敷や河岸部に不陸や段差があるため、安全な水辺の利用が困難な状態であった。加えて、右岸側には砂州が堆積し、管理上も支障がある状態であった。



事業対象範囲の整備前の状況 (左: 魚釣り、中央: 川遊び (遊泳)、右: 水生生物調査)



写真①: 高水敷と川までの間に段差があり、植物も繁茂していたため、川に安全に近づくことができなかった。



写真②: 左岸側には散策できる道等が整備されていなかったため、川岸を回遊することができなかった。

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2) 事業の目的・内容

◆地域住民・学識者・菊池市・河川管理者等が知恵を出し合い、まちなかの自然資源である迫間川周辺地域の一体的な活性化と、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、緩傾斜護岸および管理用通路等を整備した。



菊池地区整備対象全域図（整備イメージ）



整備イメージ（管理用通路整備、高水敷整正・緩傾斜護岸整備）



かわまちづくり登録証伝達式
（平成31年3月14日）



【概要】

位置	迫間川 7k400～7k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	緩傾斜護岸、管理用通路 等
事業費	5.0億円
整備完了年	令和 4年度
事業期間	令和2年度～令和 9年度(予定)

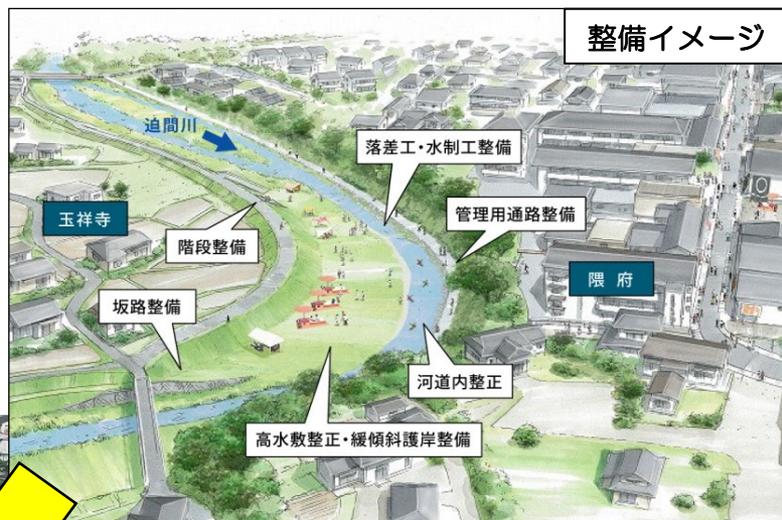
【工程表(予定)】

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
河道内整正	■							
管理用通路整備		■						
落差工、水制工整備			■					
高水敷整正・緩傾斜護岸整備		■						
坂路、階段整備		■						
測量設計費	■							
モニタリング等				■				

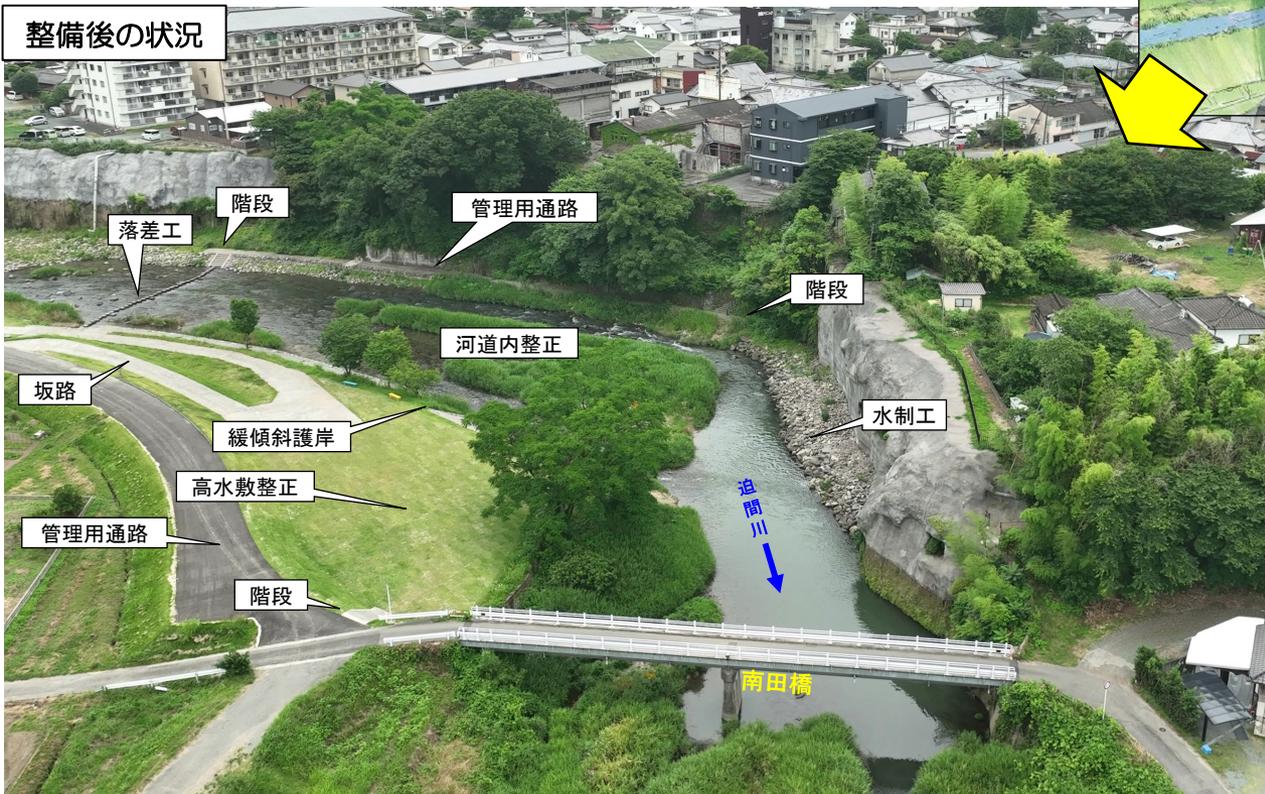
1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

3) 事業の現状

- ◆菊池地区においては、令和2年度～4年度に整備を行った。現在は整備完了しており既に地域住民により日常利用のみでなく川びらき等のイベント開催の場として有効活用されている。
- ◆整備完了後は、推進協議会等の位置付けを見直しつつ、営利活動の展開も視野にいれながら、地域住民が主体となり菊池市と密に連携しながら利用と管理の両面を実践しているところである。



整備後の状況



整備後の利用状況



地域の幼稚園による散策利用状況



地域住民による「川びらき」の開催状況

2. 事業の進捗の見込み

(1) 前回評価時からの変化

○菊池地区は当初より前倒して令和4年度に整備が完了し、菊池市及び地域住民を中心に推進協議会や川びらき等が開催されている。現在はモニタリング期間中であり、今後も順調なかわまちづくりの進捗が見込まれるため、引き続きモニタリングを行う。
工事の効率化により事業期間を短縮し、建設コスト縮減を図った。

【前回評価時から変更なし】

＜前回評価時の整備予定箇所＞



＜今回評価時の整備予定箇所＞



□ : 前回と同じ整備箇所

□ : 今回追加した整備箇所

2. 事業の進捗の見込み

(2) 今後の事業スケジュール (継続箇所: 菊池地区(水辺整備))

【事業費縮減及び事業期間短縮】

<前回評価時(R1)の概要及び工程表>

位置	迫間川 7k400~7k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	緩傾斜護岸、管理用通路等
事業費	5.0億円
整備完了年	令和6年度
事業期間	令和2年度~令和11年度(予定)



<今回評価時の概要及び工程表(予定)>

位置	迫間川 7k400~7k800付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	緩傾斜護岸、管理用通路等
事業費	5.0億円
整備完了年	令和4年度
事業期間	令和2年度~令和9年度(予定)

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
河道内改正	■									
管理用通路整備		■								
落差工、水制工整備			■							
高水敷改正・緩傾斜護岸整備				■	■	■				
坂路、階段整備					■	■				
測量設計等	■	■	■	■	■	■				
モニタリング等						■	■	■	■	■



項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
河道内改正	■	■	■					
管理用通路整備		■	■	■				
落差工、水制工整備			■	■				
高水敷改正・緩傾斜護岸整備		■	■	■				
坂路、階段整備		■	■					
測量設計費	■	■	■	■				
モニタリング等				■	■	■	■	■

2. 事業の進捗の見込み

(3) 事業の実施状況

◆事業名: 菊池川総合水系環境整備事業(熊本県)

◆計画(整備内容):

＜水辺整備(菊池地区)＞

・河道内整正、管理用通路、落差工、水制工、高水敷整正、緩傾斜護岸、坂路、階段、モニタリング調査等

◆総事業費: 約5.0億円

◆整備期間: 令和2年度から令和4年度

◆事業進捗率: 99.5%

◆残事業費: 約0.1億円

◆事業の進捗状況:

・菊池地区は、整備が完了し現在モニタリング期間中である。令和6年度はモニタリングを継続し、令和9年度に事業を完了する見込みである。

(4) 今後の事業展開

◆菊池地区は、当初の計画から2年前倒して整備を完了し、令和4年度に整備が完了した。令和5年度からモニタリングを実施しており、令和9年度に完了予定である。

(5) 今後の事業の進捗の見込み

◆菊池地区では、整備前から継続的に社会実験を行い、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

2. 事業の進捗の見込み

《効果名》

【効果の概要】

①便益の算出：約120.5億円
(良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等)

②地域のにぎわいの創出：水辺イベントの開催の場
地域のイベント広場としての活用

P5、P6、P9、P15

③治水安全性の向上：河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P13、P14、P15

④良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動
河川を活用した野外学習(水生生物調査等)

P5、P6、P9、P15

⑤費用対効果分析(算定に用いた効果①)

全体事業(B/C)：2.1

残事業(B/C)：3.3

3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

(1) 代替案の可能性の検討

- ◆菊池地区の整備内容は、「菊池市かわまちづくり推進協議会」、「菊池市かわまちづくり会議」で議論を重ねた上で整備内容を検討しており、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が適切と考えている。令和6年度現在は整備完了後のモニタリング段階であり、令和9年度に完了予定である。

(2) コスト縮減の方策

- ◆建設発生土の利用促進及び護岸整備の石積み等に河道内整正時の現地発生材を再利用することにより、建設コスト縮減を図った。
- ◆イベント前に地域が主体となった草刈りを実施し、イベント開催時にも参加者と協働の草抜きを実施するなどの啓発も行われており、地域と協働の維持管理による管理費の縮減が期待されている。
- ◆今後も、利用者と管理者で維持管理の方策を検討しながら、新たなコスト縮減の可能性等を探り、利用モニタリング等を進めていく方針である。



護岸整備の石積みにおいて、現地で発生した巨石を使用



「川びらき」開催時の一人一本草抜き運動



維持管理性を考慮した整備内容について地域住民と現地で意見交換

4. 対応方針(原案)

- ◆菊池川総合水系環境整備事業は菊池川水系河川整備計画【平成23年9月】の目標を見据えて事業を推進しているところであり、事業を通じて着実に菊池川らしい河川環境と良好な河川景観、水辺空間を保全・創出し、次世代へ引き継ぐ目標を達成しつつある状況である。
- ◆流域連携についても、菊池川を中心に活動する団体による地域活性化の取組も順調に進捗しており、利用面、管理面の双方において今後も地域からの協力が期待できる。
- ◆菊池地区については、菊池市が進める隈府・玉祥寺を含めた迫間川周辺地域の一体的な活性化を踏まえた緩傾斜護岸および管理用通路等を整備し、良好な自然環境の保全とともに利用安全性、治水安全性が向上したことにより、地域住民により日常利用のみでなく川びらき等のイベント開催の場として有効活用されている。
- ◆また、菊池地区では「菊池市かわまちづくり推進協議会」、「菊池市かわまちづくり会議」等を通して、かわづくり・まちづくりを軸とした地域の活性化や整備後の利活用方針等について利活用等の様々な実証実験を重ねながら今後の利活用を増やすための協議を進めているところであり、地域の協力体制が整っている。
- ◆費用対効果(B/C)については、全体事業2.1、残事業3.3である。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。